



特定医療法人社団

鵬友会 ニュースレター

鵬友会ホームページ アドレス
<http://www.goodream.co.jp/hoyukai/>

第51号

発行:2010年7月15日
発行責任者:
特定医療法人社団 鵬友会
事務局長 池島 守

慢性期の医療にとって“看護は治療”であるとの信念で！！

～8月1日をもって、全館禁煙に！！～

新中川病院 院長 福田 千文



当院は今、開設25周年を迎えようとしている。療養型の慢性期医療を担う病院としての、基本的なモットーを述べてみよう。

まず第一に、医療の質の高い、地域の中核となる病院作りである。つぎには、家族の方々の意識の変化に伴うニーズに、適切に応えることのできる環境作りである。この2点を達成するために、今年の重点は、外来・手術室・売店さらには、ベッドサイド周りなどの整備に力点を置いて取り組み始めている。

外来ブースで言えば、点滴などの処置をよりよい環境で受けられるよう、ベッドを増やし、当院の目玉である禁煙外来の指導室を整備したりしている。

売店を新たに設置するについては、外来患者や面会にこられた家族の方の要望に応えることのできる品揃えにしたい。そのためには、アンケートを取り意見を聞いていく必要がある。例えば、在宅での食事形態などで困っていることを考えると、その対応もあるかもしれない。介護で使う衛生材料なども、その1つである。

手術室については、皮膚科・泌尿器科・整形外科を標榜するためには不可欠であり、新たに、整備した。

ベッドサイドの環境改善の重点は、プライバシーの確保である。大部屋の多い当院にとっては、解決策はなかなか困難であるが、個別ベッド3床室をさらに整備して、ご家族とのプライベートな空間を作れたらと考えている。液晶テレビの設置も敢行した。

環境の視点でいえば、当院は、8月1日から院内100%の禁煙とした。仕事中はタバコは吸えない。喫煙場も設置しない。厳しいかもしれないが、医療機関としては当然のことと考えている。

また、当院のような、療養型の病院においては看護が果たす役割が非常に大きいと常日頃、痛感している。優しい笑顔やさりげない言葉かけ、無言の心づかい、なにげなくシーツのしわをのぼすしぐさなどなど。もちろん、医療にまつわる、感染管理・褥瘡・ヒヤリハットなども大切ではあるが、これらを併せ持つことができれば、“看護は治療”であると言っても過言ではあるまい。このことは、私自身のポリシーとして自分自身の胸に据えている。

さてもう1つ、余談を述べると、近隣のクリニックの医師の皆様を活用して頂けるような、オープンシステムの病院を目指したいということがある。

最後に、当院のホームページをご覧ください。折々の活動を更新しております。



【講演する児玉院長】

平成22年6月19日（土）13：30より、湘南泉病院において、第13回市民向け医療・福祉講座を開催しました。今回のテーマは「一般病院が取り組む在宅医療について」とし、一般病院である湘南泉病院の在宅医療部が実際に関わった在宅での看取りの事例を挙げ、その時に感じたこと、課題として浮かんできたことなどを話し合いました。

まず、児玉院長が「湘南泉病院における胃瘻造設について」をテーマに講演し、湘南泉病院の胃瘻造設のやり方を、写真や院長自ら描いた絵を用いて分かり易く丁寧に説明しました。その中で、胃瘻造設を施す際の落とし穴や注意点、造設した後の管理の重要性を訴え、胃瘻はきちんと機能すれば、在宅で管理できる方法であると述べました。

続いて児玉院長が座長となりシンポジウムが始まりました。初めに、湘南泉病院在宅医療部の往診医である龍瀧医師が2つの事例を挙げ、入院から在宅に至る経緯や家族の背景などを説明しました。在宅看護・介護を上手く行う要因として、複数の介護者がいたこと、家族が患者の最期を受け入れていたことなどを挙げ、さらに、今後ますます進展する高齢化の中において、医療が解決できることには限界があり、在宅での看護・介護を行うにあたり大切なことは、自分がどんな最期を迎えたいかという意志表示をしておくことだと述べました。



【龍瀧医師による講演】

次に今田主任ケアマネージャーが、ケアマネージャーの説明やその役割、介護保険についての説明をしました。在宅支援を行う際、家族のどうしようもない不安や感情を受け止め、理解し、手を差しのべることが大切で、家族が不安や感情を爆発させることがあっても、相手の家族のことを理解しようとするれば、必ずこちらのことも理解してくれるんですと述べ、さらに中村訪問看護師は、訪問看護のやりがいについて話し、実際に介護に携わっている家族が毎日どれだけの不安と闘っているのかを強調していました。また最期のお別れの時に、体を拭きながら家族の方が涙を浮かべ思い出話をしている様子を目の当たりにした時は、心を打たれ、訪問看護という立場で、少しでもお手伝いできたことに感謝しましたと述べました。その後の意見交換会では、参加者から様々な意見が出されました。一般の方からは、龍瀧先生の看取りについての謙虚な語り方、死について本当に考えさせられ、家に帰ったら早速、家族会議をしようと思えますといった感想や、施設関係者からは、一人では死ねない。日頃から良い家族関係を築いておくことが大切だと思いますといった意見、さらには、夜間・休日中の対応など、今後に向けられた課題についての意見も出され、充実した会は16：00に終了しました。



【シンポジスト

左：今田主任ケアマネージャー



【会場風景】